

令和7年度 第3回 村櫛小学校学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年2月6日（金） 13時20分から15時40分まで
- 2 開催場所 村櫛小学校 3階 会議室
- 3 出席委員 徳増 久子、遠山 通夫、藤田 善人、柴田 宜克、田中 奈緒子
新村 達也、中村 晃子
- 4 欠席委員 徳増 善幸
- 5 オブザーバー なし
- 6 学 校 石塚 稚人(校長)、宮本 直子(教頭)、鈴木 亨(教務主任・CS担当職員)
吉田 真季(CSディレクター)
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 吉田 真季
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、遠山通夫委員から徳増久子会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。

10 熟議事項

- (1)今年度の学校関係者評価について
 - 学校運営に資する活動の様子
 - いじめ防止基本方針に基づく取り組み状況、目標達成状況などを含む
- (2)来年度の学校運営の基本方針
- (3)今年度の学校運営協議会の自己評価について
- (4)来年度の学校運営協議会の活動について

11 会議記録

司会の宮本直子教頭から、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1)今年度の学校関係者評価について

鈴木亨教務主任から別紙に基づき令和7年度の学校の様子について説明があった。今年度は読書指導に力を入れており、保護者からも読み語りボランティアに新たに3名加わった。また、校舎の2階に季節に合わせた本の紹介コーナーを運営する事で校内での読書の関心を高めることができた。新しい学校運営にかかわる取り組みとして6年生の卒業製作体験を村櫛町内の家具職人である黒田家具に依頼しブックスタンドを製作した。コーディネーターから紹介頂き実現したこの取り組みは、子供たちが地域の方と触れ合う良い機会となった。今年度は2件のいじめを学校として認知した。1件は年度初め、2学期以降落ち着いた。もう1件は吃音に対するからかい。学校は多くの目で子供のあらわれをみることやどういことが“いじめ”か研修したり、こまめにミーティングしたりしている。ケース会議や初期対応を大切に動いている。委員からは、以下の発言があった。

- ・いじめの対応が早くて素晴らしい。生徒指導主任が中心となり職員で情報を共有し、その日のうちに対応し、問題が小さいうちに対処してくれることがありがたい(徳増久子委員)
- ・子供は思春期なので家で教えてくれない。友達と何かあったのか、機嫌が悪いのかなと感じる時はある。話を聞いてもらえれば落ち着くようだ(新村達也委員)
- ・母親にしか学校や友達のことを教えてくれない。父親には教えない(中村晃子委員)
- ・家で感じたことを学校に相談していく。PTAとしても子供の話を聞こう、子供の状況をキャッチしていこうと呼び掛けていくことが大事(徳増久子委員)
- ・アンケートの言葉は学校独自なのか、クレームは多いか少ないのか知りたい。親としての期待値が高いとアンケート⑩68%のように低くなる(遠山通夫委員)

- ・このような観点で捉えて下さいという質問をすると数字が上がってくる(徳増久子委員)
- (2) 来年度の学校運営の基本方針について

石塚稚人校長から、本校は児童も職員数も減ってしまうことが目前に迫っているのをふまえて別紙資料に基づき来年度の学校運営の基本方針について、合言葉を“村櫛の子「一人一人を大切に作る学校」「一人一人が活躍する学校」”に令和8年度から変更していきたい旨の説明があった。委員からは、以下の発言があった。

- ・村櫛小児童数の推移の資料のところの住民票の数と違う入学予定児童はどこへ行くのか。浜松市内の他の地域の児童も学区外入学をすることはあるのか(徳増久子委員)
- クラス替えや発達支援級があることを理由に庄内学園へ入学する(鈴木亨教務主任)
- 浜松市は小学校入学の時、隣接校への入学は選択できる(石塚稚人校長)
- ・庄内学園との統合の話は出るのか教えて欲しい(新村達也委員)
- 教育委員会は視野には入っていると思うが、地域の思いや願いを大切にしている。地域から統合を要請すればそのような流れになるだろう(石塚稚人校長)
- ・幼保運営委員会と話す機会があった。幼稚園も小学校も教育機関という役割だけではない。今年度自治会の0歳児は0人である。難しい問題に直面している(遠山通夫委員)
- ・急速に合併の方向になるということはないので、石塚稚人校長が提案した学校経営構想を盛り上げていきたい(徳増久子委員)
- ・時代は変化していく。児童数減少など色々な問題点はあるが、PTAや学校運営協議会などで相談をして皆で話し合っていく考え方でいいのではないかと(柴田宜克委員)
- ・石塚稚人校長の考えた学校経営構想は村櫛に合っていて素晴らしい。子供のことを思ってくれ幸せ。「好きを育み、得意を伸ばす 主体性」という項目が入っており、庄内中学校へ入学しても対応していける。好きなことや自分の意見、自己肯定感があれば自信へ繋がりが大勢のコミュニティに入っても大丈夫(田中奈緒子委員)
- ・幼稚園の発表会を参観してきたが、年少の園児も大きな声で堂々としていた。少人数でも一人一人を伸ばしていけば良いと思う(藤田善人委員)
- ・人数を増やすことは難しいので、一人一人を伸ばす視点をもって教育して頂けるとうれしい。閉ざされた学校でもあるので他校との関わりもお願いしたい(新村達也委員)
- ・指標が一つあればと思う。持久走は個の持つ力に合わせてスタートを決め、ゴール付近で競わせる。スタートが違っていても良いと子供たちに考えさせてもよい(徳増久子委員)

協議の結果、来年度の学校運営の基本方針について委員との間で共通理解ができた。

(3) 今年度の学校運営協議会の自己評価について

議長より、今年度の学校運営協議会の自己評価を行いたいと発言があった。各委員が4つの評価項目について考えをまとめ、それを基に熟議を行った。委員からは、以下の発言があった。

- ・楽しい学校、挑戦する学校を構築するにはそれぞれの立場や利害関係者が何をすべきか、何ができるか、またどんな工夫が必要かなど熟議する事ができた(遠山通夫委員)
- ・学校と地域が来年度も密接に連携し、具体的なことを提示して学校としての魅力を増し、子供を入れたい学校、選ばれる学校になるように努めたい(徳増久子委員)

(4) 来年度の学校運営協議会の活動について

小規模校のメリットを生かして村櫛小学校の魅力を増やし、子供を入れたい通わせたくなる学校になる為の学校運営について、熟議することを確認した。

※その他の連絡事項等

宮本直子教頭から、次回会議は令和8年5月8日(金)午後1時20分から3階会議室で開催する旨の報告があった。なお、協議内容については、学校運営の基本方針の承認と学校支援活動についてであることが示された。